



兵庫県  
看護協会の  
会報誌「まいん」  
2016年

特定非営利活動法人  
こどもコミュニティケア  
代表理事 末永 美紀子  
(看護師・保健師・保育士)

神戸市垂水区の明石海峡大橋を望む丘の上に「神戸どもそたちの丘」があります。NPO 法人こどもコミュニティケアが認可外保育施設「ちっちゃなこども園にじいろ」と小規模保育事業「ちっちゃなこども園よつは」障がい児通所支援施設「てっぺんでい」を運営しています。

## 『こどもたちの未来を担う、大切な環境づくり。大きな一歩をみんなと一緒に。私たちの願いです。』

2004年に「みんな一緒に育ち合おう」を合い言葉に、喀痰吸引や経管栄養などの医療的ケアが必要な子どもたちと先天性疾患や障がいを持つ子どもたち、健康上の不安のない子どもたちが「共に育つ…共生保育」を始めたのが最初です。兵庫県立こども病院に勤務していた看護師が「退院後に通える保育園や幼稚園がほとんどない」とを知り、地域の開業小児科医の応援を得て、保育士や保護者と一緒に立ち上げました。「長時間保育となる医療関係者の子どもたちに、より家庭的であたたかな保育を」というのも柱のひとつです。

「おうち」のような環境で、兄弟のようにいろんな年齢の子どもたちが一緒に育つ環境を大事にしています。子どものニーズに当たり前に応えるために、手作りの夕食や入浴も毎日提供してきました。最近は、育児支援が行き渡ってきてイクメンパパも増えてきたためか、お風呂に入ってから帰る子どもたちはいなくなりましたが、夕食は相変わらず大家族のよう

うにぎやかです。医療的な配慮やケアが必要な乳幼児は、学校教育のように権利保証がないため、現在でもほとんどの保育園や幼稚園に保護者の付添なしで通うことができません。私たちは単に「預かることで療育負担を軽減することだけでなく」「子ども社会に参加するのは子どもの権利」と考えて毎日の保育と療育を行っています。

12年前に比べ、地域で活躍する看護師が増え、放課後等デイサービスでも医療的ケアに対応するところや小児に訪問する看護ステーションが増えてきましたが、まだまだ不足しているのが現状です。

小児は進学などの環境の変化や疾病・障がい状況の変化が速く、さまざまな医療・福祉・教育機関の連携が欠かせません。専

門医、開業医、訪問看護師、保健師、学校の先生もいっしょに会議をもつなどの「地域チームケア」によって、ご本人とご家族が笑顔で在宅で暮らせるように支えていくのも、直接の看護ケアとともに大きな役割のひとつです。

地域看護は関係者が多く、課題も複雑になりがちですが、長い期間にわたってかわることができ、家族丸ごとのケアをし、成長と一緒に喜べるのも魅力です。これからは小児に限らず看護職が地域で活躍することが求められていますので、多くの方と一緒に新しい地域看護を作りたいと思っています。



知ってください

# 医療的ケアが必要な子どもたちのこと

2016年10月7日～17日 読売新聞 医療ルネサンス6回シリーズ  
ぜひ図書館などで記事を読んでください。

医療ルネサンス No.6410

## 医療的ケア児

### たん吸引 地元入学へ壁



「たん吸引が必要で、通園や通学が難しい子どもたちが増えています。たん吸引が必要な子どもたちが、地元で入学できるようにするには、どのような壁があるのでしょうか。医療的ケア児の家族や関係者から話を聞きました。」

たん吸引とは、気管に吸引管を挿入し、痰を吸引する装置です。たん吸引が必要な子どもは、呼吸器系に異常があることが多く、痰を吸引しないと呼吸が困難になります。そのため、学校生活でもたん吸引が必要で、通園や通学が難しい子どもが増えています。

たん吸引が必要な子どもが、地元で入学できるようにするには、どのような壁があるのでしょうか。医療的ケア児の家族や関係者から話を聞きました。

たん吸引が必要な子どもが、地元で入学できるようにするには、どのような壁があるのでしょうか。医療的ケア児の家族や関係者から話を聞きました。

たん吸引が必要な子どもが、地元で入学できるようにするには、どのような壁があるのでしょうか。医療的ケア児の家族や関係者から話を聞きました。

医療ルネサンス No.6411

## 医療的ケア児

### 短腸症候群「障害」見えず



短腸症候群とは、腸の長さや機能が正常に発達しない状態を指します。短腸症候群の子供は、消化吸収能力が低下し、栄養不足や成長障害を引き起こす可能性があります。しかし、短腸症候群の子供は必ずしも「障害」と見做されるわけではありません。

短腸症候群の子供は、消化吸収能力が低下し、栄養不足や成長障害を引き起こす可能性があります。しかし、短腸症候群の子供は必ずしも「障害」と見做されるわけではありません。

短腸症候群の子供は、消化吸収能力が低下し、栄養不足や成長障害を引き起こす可能性があります。しかし、短腸症候群の子供は必ずしも「障害」と見做されるわけではありません。

短腸症候群の子供は、消化吸収能力が低下し、栄養不足や成長障害を引き起こす可能性があります。しかし、短腸症候群の子供は必ずしも「障害」と見做されるわけではありません。

医療ルネサンス No.6412

## 医療的ケア児

### 訪問保育 家族にゆとり



訪問保育とは、家庭に保育士が訪問して保育を行うことです。訪問保育は、医療的ケア児の家族にとって大きな負担を軽減し、家族にゆとりをもたらすことができます。

訪問保育とは、家庭に保育士が訪問して保育を行うことです。訪問保育は、医療的ケア児の家族にとって大きな負担を軽減し、家族にゆとりをもたらすことができます。

訪問保育とは、家庭に保育士が訪問して保育を行うことです。訪問保育は、医療的ケア児の家族にとって大きな負担を軽減し、家族にゆとりをもたらすことができます。

訪問保育とは、家庭に保育士が訪問して保育を行うことです。訪問保育は、医療的ケア児の家族にとって大きな負担を軽減し、家族にゆとりをもたらすことができます。

医療ルネサンス No.6413

## 医療的ケア児

### 医療・福祉・教育の連携を

#### Q&A



医療的ケア児のケアには、医療、福祉、教育の連携が不可欠です。本記事では、医療的ケア児のケアに携わる専門家から、医療・福祉・教育の連携の重要性について話を聞きました。

医療的ケア児のケアには、医療、福祉、教育の連携が不可欠です。本記事では、医療的ケア児のケアに携わる専門家から、医療・福祉・教育の連携の重要性について話を聞きました。

医療的ケア児のケアには、医療、福祉、教育の連携が不可欠です。本記事では、医療的ケア児のケアに携わる専門家から、医療・福祉・教育の連携の重要性について話を聞きました。

医療的ケア児のケアには、医療、福祉、教育の連携が不可欠です。本記事では、医療的ケア児のケアに携わる専門家から、医療・福祉・教育の連携の重要性について話を聞きました。

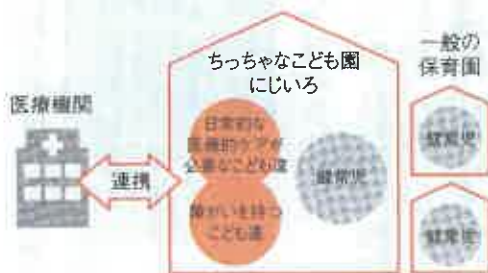
# 病気や障がいを抱えた子ども達と その家族を支える保育園を運営

代表の末永美紀子さんはかつて看護師として小児医療の専門病院に勤務されていました。そこで、慢性疾患や障がいを抱える子ども達を預かってくれる場所がどこにもないという現状を目の当たりにしたことから「こどもコミュニティケア」を立ち上げようと決心したそうです。

## 「共生保育」という理想を実現するために

医療技術の発達により、病院ではなく自宅で医療的ケア(たんの吸引や酸素投与など)を受けながら過ごすことも増えていきます。でも、そんな子ども達を受け入れる保育施設はほとんどなく、彼らは他の子ども達に混じって共に育ち合う機会が奪われています。「こどもコミュニティケア」が運営する「ちっちゃな子ども園にじいろ」は、そんな医療的ケアが必要な子どもも、障がいのある子どもも、健常児も、みんな一緒に過ごせる「共生保育」を実現している数少ない施設です。

## 「ちっちゃな子ども園にじいろ」のサポート



「にじいろ」の運営だけでなく、子育てを支援するイベントを開催したり、「調査・研究事業」として障がいや慢性疾患の子どもを持つ家庭の支援ニーズをリサーチしたり…。今、困っている方々を支えるだけでなく、将来的に共生保育が当たり前に認知される社会を実現するのが私達の目標です。そのためには共生保育の必要性を理解してもらえよう、説得力のある実証データが必要なのです。「行政にもまだまだニーズは理解されていないなか、ゆめ・まち基金の存在は、そんな大きな夢をかなえる力になるそうです。「サポーター制度

## すべての子ども達が受け入れられる社会へ

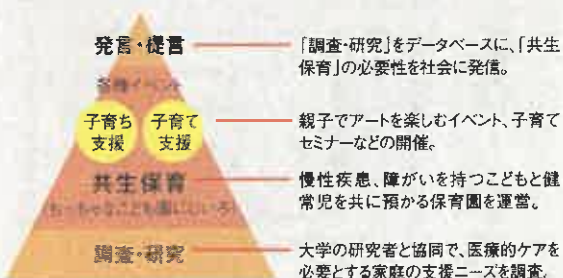
「にじいろ」の運営だけでなく、子育てを支援するイベントを開催したり、「調査・研究事業」として障がいや慢性疾患の子どもを持つ家庭の支援ニーズをリサーチしたり…。今、困っている方々を支えるだけでなく、将来的に共生保育が当たり前に認知される社会を実現するのが私達の目標です。そのためには共生保育の必要性を理解してもらえよう、説得力のある実証データが必要なのです。「行政にもまだまだニーズは理解されていないなか、ゆめ・まち基金の存在は、そんな大きな夢をかなえる力になるそうです。「サポーター制度

「こども達に家庭的で温かい保育を」というポリシーを大切にしています。強い目的意識…その両方を兼ね備える「こどもコミュニティケア」の活動が、より良い社会の実現へとつながっていきま



「こども達に家庭的で温かい保育を」というポリシーを大切にしています。

## ミッションと活動ビジョン



## 「こどもコミュニティケア」の活動に興味を持たれたら…

「ちっちゃな子ども園にじいろ」への支援方法はさまざま。寄付金という形はもちろん、「家庭で使わなくなった子ども用品」や「また使えるけれど不要な品」の寄付も受け付けています。詳しくはホームページの目次から「宝物箱」コーナーへ

〒655-0052 神戸市垂水区舞多聞東2-6-1A  
TEL 078-784-5333  
URL <http://blog.canpan.info/kodomo/>  
Email [info@niji-iro.info](mailto:info@niji-iro.info)

こども達は病気や障がいなど意識せず、すぐ仲良くなります。ある健常児の親御さんは「ここで育ったことは我が子にとって生涯の財産です」と言って下さいました。



「にじいろ」スタッフの方々 上段左から小野寺瞳さん、畠山敬司さん、沢見倫恵さん 下段左から梅宮知子さん、末永美紀子さん

# 病気や障がいを抱える 子ども達と家族を 支える保育園



NO.16 特定非営利活動法人 こどもコミュニティケア



様々な状況にある子ども達を  
一緒に預かる「共生保育」を実施



看護師である代表が立ち上げた「こどもコミュニティケア」。同団体が運営する保育園「ちっちゃなこども園にじいる」では、医療的ケアが必要な子ども、障がいのある子ども、健常児と一緒に過ごす共生保育を実施しています。全国的に例の少ないこの取り組みへのニーズは高く、困難な状況にある子ども達の「育ちの場」として、高い支持を受けています。



「共生保育」が当たり前前の  
社会を目指して



「こどもコミュニティケア」では、共生保育の必要性を社会に発信していくため、障がいや慢性疾患の子どもを持つ家庭の支援ニーズをリサーチする調査・研究事業も行っています。すべての子ども達が参加できる社会を目指し、これからも活動は続きます。

●お問い合わせ こどもコミュニティケア  
〒655-0052 神戸市垂水区舞多聞東2-6-9-1F ☎078-784-5333 <http://blog.canpan.info/kodomo/>

3月14日

2013

神戸市垂水区の自宅で、慢性疾患のある子どもや障害児を預かる民間保育施設「ちっちゃなこども園にじいる」を運営する。先駆的な事業が評価され、1月、患者の視点に立つ看護師に贈られるナースオブザイヤーのインディペンデントナース賞を受賞した。

東京のNPO法人「築ねつと」のネット投票で選ばれ、「子育て支援が医療分野で認められ、うれしいと喜ぶ。

兵庫県立看護大現・兵庫県立大を卒業。県立こども病院の看護師と

インディペンデントナース賞を受賞した

末永美紀子さん



して未熟児や障害児のケアを経験していた。「母親が子育てを楽しめるため、医療機器が発達し、経管栄養装置や吸引装置が自宅で可能になった。しかし親の負担は重く、障害児のケアを受け入れる保育施設をつくる決意をした。会社員の夫は自宅開放に賛成しなかった。37歳。

神戸市出身。夫と2人の男児と暮らす。37歳。

(津谷治英)

協力してくれ、2004年に開設。現在は、障がい児、1階が保育施設で、健常児を含め約30人の世話をしている。医療機器を備え、重病のケアもできる看護師の発想が生んだ「保育園」だ。

救命医療の高度化で多くの未熟児の命が助かる時代になったが、重病や障害が残ることも少なくない。そんな子どもたちと母親を支援できる社会を広げたい。その先駆けになれたいと抱負を語る。

## 特定非営利活動法人こどもコミュニティケア

〒655-0052 神戸市垂水区舞多聞東 2-6-9-1F  
TEL : 078-784-5333 FAX : 078-742-9775  
メール : [office@children-cc.org](mailto:office@children-cc.org)  
ホームページ : <http://children-cc.org>  
ブログ : <http://blog.canpan.info/kodomo/>

認可保育所 舞多聞よつば保育園  
小規模保育事業 ちっちゃなこども園ふたば  
児童発達支援&放課後等デイサービス て・あーて  
(休所中) 認可外保育園 にじいる

2011年(平成23年)2月5日(土曜日)

夕刊 読者 豊 楽 園



### 子供の医療的ケア支える

たんの吸引や酸素吸入などの医療的ケアを、家族から受けながら暮らす小児患者が増えている。神戸市垂水区の末永美紀子さん(35)は2004年から、患者と健常児と一緒に預かる認可外保育施設「ちっちゃなこども園にじいる」を自宅で運営している。

医療的ケアの大部分は、医師、看護師と家族にしか認められていない。小児病

院の看護師だった約10年前、預け先がなく、母親が片時も外出できずに孤立している現状を知った。20人程なら家で預かれる。その決意を夫と長男も支えた。

看護師や保育士を採用し、てんかんや呼吸が突然止まる病気などの乳幼児を受け入れてきた。「病気の有無に関係なく、子育てを助けてもらえる地域にしたい」と力を込める。

本当に必要とされるこども園を  
ともにつくる。ともに育てる



NPO法人こどもコミュニケーションケア  
代表理事 **末永美紀子**さん  
聞き手=勝原裕美子(オフィス KATSUJIHARA代表)

障害のある子どもだけでなく子どもと一緒に育ってほしいという願いを胸に、「第三のおばあちゃんち」みたいな保育園が必要！と、NPO 法人こどもコミュニケーションケアをつくった末永美紀子さん。子どもひとりにとってベストな環境をつくるために、多職種協働

111 社会福祉学 第4巻 第1号 2017年10月

## 子どもができれば 諦めざるを得ないのはなぜか

—— 隣原 (以下、太字) じつは末永さんは、私が兵庫県立看護大学(兵庫県立立川看護部)の教員をしていたときの教え子なんですよね。今日は逆に私のほうが教わりに来ました。

まず、看護師として病院で働きながら、なぜ保育園をつくりたいと思ったのか、教えてください。

**末永 (以下、略)** 学生時代の講義で、いちはん印象に残っているのが、じつは隣原先生でした。今日はその先生に来ていただけでとてもうれしいです。

私が院務活動をしていた当時、病棟看護師は金銭がアルバイトで、しかも夜勤もできるというのが原則でした。院内見聞も時間の制限があり、一般の保育園も8時から19時には迎えに行かなければならない。育児休業前はチームリーダーとしていきいきと働いていた先輩たちが、がんはって復帰しても1ヶ月か月でキープアップするケースを例も目の当たりにしていました。

働き盛りの中堅看護師が、諦めたくないのに諦めざるを得ないのです。本人もつらいで



末永美紀子 (けいこ) (ついでに)

看護師・保健師を取得後、和歌山県立医科大学附属病院、兵庫県立ことし病院に勤務。[子育てしながらできる小児看護の卒業生]として、出産退職後に「赤ちゃんを育所」を開校。2008年にNPO法人化。保育士と子どもの発達支援に、これまで副院長としていた民間企業・財団は20以上。制度と制度の間には隙間が生じやすく、その隙間を埋めるために「今、目の前にいる人々」のために組織を築き上げてきた。地域住民と市民、寄附社会でつながり、地域保健の推進に努める。NPO、家庭内、小児看護の推進に努める。保育・看護教育関係者との共同研究や勉強会も大切にしている。次世代育成のために、社会福祉系、看護系学生の学習や受け入れ、職員の自主学習や多様な働き方を支援するために、最近、経営学も学び始める。夫と男の子の4人暮らし。

すし、病院としても人材の損失で、後輩の私たちも困る。諦めないで」と思い、愚者さんにとっても頼もしいベテランがいなくなるのはマイナスで、「これでは誰もハッピーじゃない」と感じていました。

そんななかでも仕事を続けられるのは、おじいちゃんおばあちゃんの家が近いが同居している人でした。だから、義三のおばあちゃんのような家庭的な保育園があつたら辞めずに済むのかもしれない、と考えていました。

—— 隣原のある方も医療的ケアの必要な子どもでない子も一緒に、という発想はどこからきたのですか。

病院に勤めていたときに、たとえば、心臓

の悪い子が手術などの治療を終え、症状も安定して退院しても、「心臓が悪いから」と地域の幼稚園や保育園に入れてもらえないという実態を知りました。そういう子どもは、「何かあつたら怖いから」とおじいちゃんおばあちゃんにも預かってもらえなかったりします。

また、退院時に医師は「風邪、ひかせん」といって、「そんな無茶な」と思いました。もしその子が風邪をひいても、増ひくんやから、しやあないしやあない」と言つてあげたいと思つたし、一人で重い責任を負つていたお母さんたちの姿は今も忘れられません。

もう一つ、先天性の病気で入院していたお赤ちゃんが、手術で治る見込みが高いにも



みんなで川の字になつて、ゴロゴロゴロゴロ。



天気の良い日は、広いテラスでお遊び。

かかわらず、手術をしても幸せになると思えない」と、どうしても家族から同意をもらえないというケースがありました。たとえば、肺炎や腫瘍があつても生きていけるんだというとき、世の中のもっともたくさんの方が知っていたら……という思いが、私の中にずっとあります。

だから、保育園をつくりたいと思つたときに、お母さんが仕事を続けられる保育園でありたいというのと同時に、どんな子どもたちも一緒に着ような保育園をつくりたいと思つました。ここにいる子どもたちは保育園のときにどんな子がいたか、覚えていないかもしれませんが、それでも、お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃん、わが子が、わが孫が、腫瘍や肺炎をもつていてもいなくても当たり前と一緒に過ごしている姿を見ることで、少しずつでも社会の理解が深まっていってほしいというのが、私のチャレンジです。

ここにいる医療的ケアの必要な子どもたちは重症心身障害児ばかりではなく、気管切開などの医療的ケアが必要なけれど走り回っている子どもたちもいます。子どもが子ども社会に参加する」というのは基本的権利だと思います。障害者差別解消法) によって、合理的配慮という考え方がやと周知され

ましたが、未就学の世界まではそうした考え方がまだまだ浸透していません。障害児がいるならお母さんが働かなければいい」という発言もまだまだ聞かれます。そこには、保育園は働く人のために必要という大人の都合からの視点しかなく、子どもが子どもたち人間として当たり前前の社会をつくることや、養育生活を体験することの大切さがすっかり抜け落ちています。ですから、私たちがいちばん大切にしていることは、それぞれの子どもにとってベストな環境をどうつくるかということなのです。

## 誰もが通えるような 小さな子ども園があれば

—— 末永さんは保育園を許可もとられましたね。

\*1 合理的配慮  
障害のある人の人物が、障害のない人と同じように生活できるように配慮され、教育や就労、その他の社会生活において、社会の制度や環境が障害となつて阻害する障害や困難を取り除くために行なわれる個別の調整や変更のこと。たとえば、車いすを使用している人のためにスロープやエレベーターを設置することなど。

保育園というのは、構成メンバーのほとんどが保育士です。保育士さんのものの見方を理解するためには保育の世界にしっかり身を浸し、共通言語をもつことが必要だと思います。

保育士は子どもたちをグループととらえて関わっています。看護師はそれぞれ1人ずつを個別に見てアセスメントします。この両方から見たら、より多角的に子どもを見ることができると思います。私たちが基礎にしているシニタイナー教育も、通常の保育や幼児教育、学校教育が理解する子どもの様子を拡張するものであって、否定するものではないんです。視野が広がるということは、それだけ子どもを全人的に理解でき、あるいは家族をよりトータルに理解することにつながると思っています。

—実際に事業を立ち上げたときのことを聞かせてもらえますか。

先輩たちを見て、妊娠前から、自分の体力では病院で働きながら子育てするのはとても無理だと思い、働き続けるための別の手立てはないかと探していました。当時、神戸市には病児保育の施設がなかったで、最初は看護の専門性を活かせる病児保育室をつくらうと思いました。保育士をしていた先輩に声を

内見し、そのなかでこちらの事情を理解してくださった医師が、空いていた家を年間限定で貸してくれということになりました。

2004年に、そこで「ちっちゃな保育所」を始めました。今の小規模保育事業のような制度はなかったで、公的補助のない認可外保育施設です。定員は12人。行政からは一切の補助がありませんから保育料を高め設定するしかなかったのですが、いつも定員いっぱい、ニーズはあるとわかりました。それでも、民間財団を研究助成の細かい助成金でつなぎながら運営でした。

そうこうするうちに、親限の5年が近づいてきました。家庭的な保育を続け、定員も増やし、保育士の休養室もある建物をつくりたかったのですが、私にはその資金がなかったため、借入、夫に住宅ローンを組んでもらい、2009年に自宅兼用の一軒家を建て、ちっちゃなことを園にじいさ」と称して移転しました。

## 休園決定から転 保育ママ制度で継続へ

—そのじいさの話題にいったのですが、それが、定員が増えても、だんだん件数



【写真】  
勝原裕美子 (ゆづりゆづり)

百重店勤務ののち、看護の道へ。臨床から臨床学、看護学を経て、2016年3月まで聖隷湘南病院執行役員、総務部長、湘南病院副院長兼総務部長。現在、「オアシスKATSUSHUKARA」の代表として、医療・福祉・介護の組織関係や看護師のキャリア支援などを行っている。

教育の現場では、未来の人たちを育てている。たくましく、しなやかに活躍する未来の子どもを育て、かつ「先生」と呼ばれていた私にはとてもうれしかった。その彼女の仕事を教えることが、子どもに何かを教えるわけではない。子どもが、家族が、そして社会が気づいてほしいと願っているところに人を入れ込み、時間をかけて人と組織を未来のために育てているのだから。

かけ、インターネットのある掲示板に、「病児保育室をNPO法人で始めたい」と書き込んだところ、たまたまそれを見た近所の小児科の関連医師がメールをくれました。その先生はすでに病児保育室の必要性をずっと市に言い続けていて、ちょうどその数か月後に開設が決まったところだったのです。

出産までの短い間ですが、その病児保育室の開設のお手伝いをさせていただきました。開設後はらくすると、先天性障害をもったお子さんが認可保育園で何年も何年も感染症にかかってしまつて病児保育室に通ってききました。先生と「子どもの人数がもっと少ない小規模の保育園が必要だよな」と話していて「じゃ、私がやります」と手を挙げ、

始めることになりました。

病児保育をやると思い立った頃、NPOの中間支援組織に相談に行き、民間の大小さまざまな助成金を教えてもらっていたので、その後、ありとあらゆる助成金に申請しました。

—最初に立ち上げた保育施設は、どんなものだったのですか。

資金がとにかく少ないので、できるだけ経費を節約しようと思つたら、そこに住むのがいざん安上がりなんです。そこで、1階を保育園にして2階に家族が住もうと考えました。話を聞いた不動産会社の女性担当者が親身になって探してくれて、150物件くらい、F.A.V.を送ってくれ、そのうち30物件くらい

も上がり、医療依存度の高いお子さんが来ると、その分人手もかかるため、赤字が懸念されていきました。そもそも、所得に応じた保育料設定ができる認可保育園が近隣にあろうと、医療的ケアが必要なお子さんの保護者は働けないことも多いので、毎日、保育を利用するわけではないのです。ようやく慣れてきた子が経済的理由で認可園に移ったりして、スタッフもモチベーションを保つのが難しいと感じていたようです。

その頃、障害児対策の認定児童発達支援センター、放課後学童サービスと事業所（児童サービス）と

に設備補助金があったので、児童サービスに切り替えようかと話し合ったことがあります。しかし、スタッフから「うちが、健康上不安のないお子さんと、障害のあるお子さんが一緒にいるから懸念があるんでしょ。障害児だけいるのなら何でもやっています。大丈夫ですか。本当に大切なことをしよう」と言われ、「本当にそのとおり」と思いました。けれど結局、忘れもしない2011年11月に、翌年5月をもって休園にすることを理事会で決定しました。

—赤字が続いては、いくら理念がよくても

01 シニタイナー教育とは

北の国産品協会のオアシスKATSUSHUKARAの運営を担った勝原裕美子氏が、自身の経験から、シニタイナー教育の重要性を説き、その実践について語っています。

シニタイナー教育とは、「自分自身の経験や知識、スキルを他の人に伝えること」を指します。これは、単に知識やスキルを伝えるだけでなく、その経験や知識、スキルを他の人に伝えることで、相手の成長を促すことを目指しています。

勝原氏は、自身の経験から、シニタイナー教育の重要性を説き、その実践について語っています。シニタイナー教育は、単に知識やスキルを伝えるだけでなく、その経験や知識、スキルを他の人に伝えることで、相手の成長を促すことを目指しています。

どうにもならないですよ。そこはどうかやっ  
て乗り越えたのですか。

その後、なまなま神戸市のホームページを  
のぞいたら、子育てからグループ家庭保育  
保育ママ事業を始めるための事業者の募  
集が出ていました。11月に公募、12月に選定、  
翌年1月に開校という短期間の進行スケジ  
ュールだったのですが、ありとあらゆる方にお  
願い、協力してくださる連携保育園を探し  
て、滑り込みで応募しました。市の事業なの  
で国の認可より条件がゆるい分、補助金も少  
なく障害児加算もないけれど、保育料は認可  
保育園と同じ所得に応じた負担額にできて、  
運営などの補助金があることでスタッフのお  
給料も保育の費を上げられると思うと、本音  
だうれしかった。その申請が通り「にじい  
ろ」と「神戸市保育ママなび」を選定するこ  
とになりました。

結局、保育ママの制度自体は2年で終わり、  
国の「子ども子育て支援法」による小規模保  
育事業に変わり、今の認可の「ちっちゃなこ  
ども園なび」となりました。国からの補助  
金が出て、障害児加算もつくことになりまし  
た。

—そこまでよく耐えられましたね。その結  
果、こもつくることができましたですね。

にも施設一体の建物をつくりました。

## 同じチャレンジをする人の お手伝いがしたい

—小さい園からだんだん大きくなって、ス  
タッフも理念を共有できる人たちが集まるよ  
うになり、利用者も信頼が増え、これからど  
んなことをしていきたいですか。

スタッフにはいろんな年齢層やキャリアの  
人たちがいて、若い職員のリールモデルにな

子どもたちも大きくなって施設が手狭にな  
ったし、設備補助金が出るので、どちらかを  
別の場所に移そうと考えました。認可施設の  
移転は難しいと言われ、認可外の「にじ  
いろ」を移転し、そこに障害児のテイサーと  
「あーて」をつくることになりました。「よ  
ななび」には口コミで障害のあるお子さんもな  
いおさんも集まってきていて、市も特権児  
童の解消のためにさらなる開設を望んでいた  
という背景もあり、小規模保育の「ちっちゃ  
な子ども園よつば」も併設して、2015年

れる人もあるし、チームとしての一体感もあ  
り、かつ、私がきりぎりマネジメントできる  
範囲なので、サイス的には今くらいがいいか  
なと現時点では思っています。

昔からよく「〇県と同じような取組み  
をしているところはないですか。うちの子を  
見てくれるところを探します」と悲憤な電  
話がかかってくるので、私たちと同じような  
取り組みにトライしてくれるところが全国に  
もつ増えてほしいと思います。死持がある  
なら、やらないで後悔をするより、やっ



職員休憩室でクラフタス。  
ベテラン保育士と若手期待の星。

木の温もりを感じる事務室。子どもたちが走り回る音や声  
がよく聞こえる。



いろいろな個性をもつ子どもたちをみる眼差しがとてもやさ  
しい。この日動遊のスタッフの皆さんと。



園庭木村をふんだんに使った遊具は、自然と心も安らぐ。



西園舎（神戸ともまの丘の敷地）とその入口

特定非営利活動法人こどもコミュニケーション  
活動開始: 2002(平成15)年12月(特選利団体として)  
2008年5月NPO法人化  
職員: 28名(保育士15名、看護師5名、栄養士・調理  
師3名、保育補助・事務5名)のほか、ボランティア13名  
新築開業:  
(1)保育事業  
・ちっちゃな子ども園にいち (2004年〜) 定員: 14人  
・小規模保育事業ちっちゃな子ども園なび (2012年〜)  
定員: 12人  
・小規模保育事業ちっちゃな子ども園よつば (2015年〜)  
定員: 19人  
(2)子育て支援事業  
(3)子育て支援事業  
(4)子どもの健全育成にかかわる調査研究支援事業  
(5)コミュニケーション・スペースの運営事業  
(6)おもちゃづくり・障害児通所支援事業  
・発達障害支援センター放課後等サービス「て・あーて」  
Te-Arte (2015年〜)定員10人  
住所 〒855-0052 兵庫県神戸市垂水区御多間東  
2-6-8  
TEL/FAX 078-784-5333/078-742-9775  
URL <http://children-co.org/>



